

万国博覧会と女性委員会 (Board of Lady Managers)

—1904年セントルイス万博を中心に—

The World Exposition and Board of Lady Managers
Focusing on Louisiana Purchase Exposition in St. Louis in 1904

楠元町子
KUSUMOTO, Machiko

1. はじめに

本稿はセントルイス万博の経営に参加し、女性の公的領域での活動と男女平等の展示の実現を試みた女性委員会の実態を明らかにするものである。19世紀半ばから欧米諸国によって盛んに開催された万博は、開催国にとって文化、生産の実力及び産業の発達を内外に示す国力のデモンストレーションの場であり、国威発揚の場であった。また何百万の人々が会場を歩き回り、展示物から直接学ぶ異文化交流の場であった。

セントルイス万博は、米国独立100年を記念した1876年フィラデルフィア万博、コロンブスの米国到達150年を記念した1893年シカゴ万博に次ぐ米国において3回目の万国博覧会として、フランスからルイジアナ地域購入後100年を経過したことを祝して1904年に開催された。このように米国で開催された万博は、国家建設の重要な出来事と密接に関係していた。W. Rydellが指摘するように、南北戦争後1876年から1916年にかけて万博を主催した開催者は、国民の心をつかむ事を最重要視し、万博により米国国民としての同一性を民衆の共感として得ようとしていたからである¹⁾。

セントルイス万博公式ガイドブックでは、この万博の最も特徴的な点として、その計画段階から女性が重要な役割を果たすことが明確にされていることを指摘し、以下のように述べている。「アメリカの万国博覧会の歴史上初めて、この万博は人種や肌の色、性別の関係ない競合基盤で行われ、女性が男性と競合し努力する芸術や教育、産業、経済といった分野における女性の働き成果は、男性のそれと平等に資格を与えられる。」²⁾ 万博における女性の功労の偉大な前例となったのは、1893年シカゴ万博の女性委員会 (Board of Lady Managers) である。ここでは、117人の女性からなる委員会が女性館 (Women's Building) を建設し、ここで女性の作品を展示し、女性問題が討論された。ほとんどの人、特に女性達はシカゴ万博の女性館は成功だったと評価した。

セントルイス万博委員会は、米国全体の女性の思想や行動の先導者とし、19州及びワシントンD.C.からその州で活躍している代表的な女性22人を選出し女性委員会 (Board of

Lady Managers) を組織し、女性が関わった展示物に対する審査や万博の公的行事に出席させ、女性の社会参加をアピールした。

セントルイス万博に関しては、教育、建築、外交、オリンピックなどさまざまな視点から近年多数研究³⁾ されているが、女性委員会の実態について論じたものはほとんどない。本稿は、世紀転換期の米国社会における女性の地位やシカゴ万博での女性委員会が果たした役割を考察し、セントルイス公立図書館の所蔵のセントルイス万博に関する新聞雑誌記事を集めたスクラップブックや日本政府のセントルイス万博資料等の分析から、セントルイス万博の経営に参加した女性委員会 (Board of Lady Managers) の実態を明らかにしたい。

2. 世紀転換期の米国社会

米国では19世紀末から20世紀初頭にかけて、急速な工業化の進展や海外からの大量移民の流入、資本と生産の集中に伴う大型企業体の出現⁴⁾ などによる社会経済の急激な変化により、貧富の差が拡大し、苛酷な労働条件や生活環境の悪化、政治の腐敗など社会、政治、経済問題を発生させた。このような社会状況を背景に、1880年から1900年にいたる時期ほとんどの大学のカリキュラムの重点が、伝統的な古典の研究から、より近代的で実利的な社会的・科学的・技術的研究へと移行し、専門家たちの関心が現在の問題に向けられた。

また、19世紀後半から州立大学が急速に成長し、米国の高等教育は特権階級の独占するものでも、男性の独占するものでもなくなっていた。多数の中産階級の女性が高等教育を受けたが、政界や実業界、専門職に入ることを拒まれ、その関心を社会事業と道徳的改革に向けた。彼女たちは、結婚制度の内外で女性がより多くの自由を確保することや、酒類や売春の禁止などに努力した⁵⁾。しかし19世紀後半のビクトリア朝の社会が求めた女らしさとは、男性に従順な女性像であった。すなわち、この時代が女性に要求した理想像は、女性は結婚して夫のために堅実な家庭をつくり、道徳心にあふれた優しい妻になるというものであった。働く女性は貧困層に限られていたため、裕福な家庭に育った娘が、社会で自立しうる職業はほとんどなかった⁶⁾。このような社会状況の中、女性たちは自らの能力を生かす場、社会参加の一つの方法として当時盛んに開催されていた万国博覧会に関与していった。

資料. 高等教育機関—性別による授与学位

年	総数・全学位	学士号または第1次専門職			修士号または第2次専門職			博士号または同等学位		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
1900	29,375	27,410	22,173	5,237	1,583	1,280	303	382	359	23
1902	31,117	28,966	23,225	5,741	1,858	1,464	394	293	264	29
1904	32,514	30,501	24,237	6,264	1,679	1,340	339	334	302	32
1906	34,189	32,019	25,215	6,804	1,787	1,366	421	383	358	25
1908	36,162	33,800	26,376	7,424	1,971	1,511	460	391	339	52

(合衆国商務省編『アメリカ歴史統計』第1巻原書房、1986年、386頁より作成)

3. シカゴ万国博覧会と女性委員会

1) シカゴ万博と女性館

シカゴ万博は、コロンブスのアメリカ大陸発見400年を記念して、ミシガン湖畔ジャクソン公園で1893年5月1日から10月30日まで開催された。会場面積685エーカーの敷地に機械館、工芸館、電気館、農業館、鉱山館、園芸館、女性館、美術館などが建てられ、入場者数は2750万人であった。会場の中心を占めたのは、「栄誉の中庭」と人工池を囲み、古代ローマ風やルネッサンス風の威風堂々とした白亜のパビリオンが並ぶ「ホワイト・シティ」であった⁷⁾。また「ミッドウェイ・プレザンス」と呼ばれた娯楽施設街が大変な人気を呼んだ。

シカゴ万博では、歴史上初めてパビリオンの企画、デザイン、運営などを女性のみで行なった。この女性館 (Woman's Building) の立案にあたって、女性委員会が組織された。シカゴ女性委員会は、シカゴ有数の資産家の妻で大変活動的なバーサ・ポッター・パーマー (Bertha Potter Palmer) に率いられた117人の女性のボランティアによって構成され、ほとんどが上流階級出身の女性であった。女性館建設に関しては、女性の展示と男性の展示を区別するものだという反対意見もあった。しかし、女性館は「博覧会のあらゆる場面で女性が排除されている現実に直面し、産業資本主義経済において価値がほとんどないと見なされている女性の仕事に対する誤った偏見を取り除き、女性がいかに貢献できるかを示す場⁸⁾」として必要であるとされ、激しい議論の末設置が決定された。

女性館は会場の西方に建設され、内部を二階とし階上階下の陳列室の中特に数個の空き室を備えて会議などに使用できるようにした。女性館の南方に小児館があり、中央に運動場があり階上の4室はこれを嚶唶院、幼稚園、調理法修習所とし屋上に児童の遊技場があった。女性館内部には、女性芸術家や女性作家の作品などを集めた展示室が配された。また、会期中「女性会議」が開催され、社会の一線で活躍する300名以上の女性たちが、多岐にわたる分野からプレゼンテーションを行なった⁹⁾。

2) 女性館での日本の展示

シカゴ女性委員長バーサ・ポッター・パーマーから日本の外務大臣を通して皇后陛下に対し、日本の女性委員の選定と女性館への出展を懇願する書状が届けられた。パーマーはシカゴ万博が各国の女性の芸術を表彰するのに最良の機関であると述べ、女性委員会の目的について次のように説明した。「本会の目的は懐古より今日に至るまで世界各国婦人の現に操る所の芸術のみならず往時に於いて如何なる美術品を製出しているかを示すことを希望する同時にこれを世界に紹介しようとするものである¹⁰⁾」このパーマーからの女性館への出展要請に対して、日本政府は西洋諸国から近代国家として認識されるためには、女性がどの程度の能力を有しているかを示すことが重要であると考え、毛利安子公爵夫人を委員長とする岩倉

久子公爵夫人以下21名の委員と書記2名からなる「米国大博覧会日本婦人委員会」を結成した。

女性館に女性作家の油彩画3点、日本画11点、磁器9点、七宝の花瓶、各種織物等の展示をした。また海外では習俗が異なるため日本の真相が正しく伝わっていないことから、日本の優美な貴婦人の実情を示す目的で、女性館に日本固有の様式で造られた「日本婦人室」を設置し、日本婦人と題する書物も編集した。これらの展示に対し、皇后や華族の女性たちは、資金と名前、時に展示品を提供し、外国人関係者の接待といった役目を献身的に果たした。またシカゴ女性委員会が建設した小児館建築費用の幾分かを補助し、慈善販売店には日本品を寄贈し、小児館にも日本の教育用の玩具を寄贈した¹³⁾。

ほとんどの人、特に女性たちはシカゴ万博の女性館は成功であったと評価した。しかし、シカゴ万博では、男女の作品が同じ場所で展示され、同一基準で評価されたわけではなかった。女性の公的領域での活動と男女平等の展示を求めたのが、セントルイス万博であった。

4. セントルイス万国博覧会と女性

20世紀最初の万国博覧会となったセントルイス万博は、1904年4月30日から12月1日までミズリー州のセントルイスで開催され、正式名称をルイジアナ買収記念万国博覧会という。1803年に米国がフランス皇帝ナポレオン一世からルイジアナ地域を購入してから100年を経過したことを記念して行なわれた。ルイジアナ地域最大の都市であるセントルイスは、ミシシッピー川に隣接し運輸の要衝であり、当時人口70万人（全米4位）を有し、煙草、麦酒、靴等の製造工業が発展していた。セントルイス万博は敷地面積514平方キロメートルに及ぶ史上最大の会場内に1576の建築物が建ち並び、博覧会のシンボルである美術館などの諸陳列館は全体の着色をアイボリー色に揃えたため、万博会場の中心地は「アイボリーシティ」と呼ばれた。外国からの参加数は44カ国で前回の1900年パリ万博の37カ国を上回った。自動車、航空技術、無線電信の三つの近代技術をはでにデモンストレーションし、自動交換式電話の登場など来るべき米国の高度機械時代を予告する博覧会となった。またセントルイス万博でもシカゴ万博と同様な娯楽街「パイク」が建設され、多くの入場者を集めた¹⁴⁾。

セントルイス万博の会場内の「パイク」では、給仕したり劇場で演じたりする女性が多く見られ、女性自ら売店の出店契約を結び、店を経営していた。また万国博覧会会社では女性が事務員や秘書として働き、会場の彫刻の作成や造園を担当する女性も見られた¹⁵⁾。一方新聞には万国博覧会教育館内ドイツ展示場の女性職員と会場警備員の以下のようなトラブルが掲載されていた¹⁶⁾。「会場警備員は、男性職員が通行証を提示しなくても建物に入ることを許可するが、女性職員には通行証の提示を求め、提示しない場合はドアから押し出し突き飛ばすなど乱暴な扱いをした。このことに対する女性の訴えを受け、ドイツ展示場の責任者が

万博当局に抗議した」この記事からも、男性と同様な扱いを望み、男女差別的行動を許さない女性の姿が現れている。

日本の万博委員もセントルイスを初めて訪れた印象として、路面電車が走っている事や高い建物があること、日中も電気が点灯していることともに、日本女性と比較して米国の女性が生き生きと幸福そうにいつも活動している事を指摘している。そして日本ではほとんどの女性が家庭以外で活動していないが、今後は女性も働く場を増やす必要があると述べている¹⁵⁾。

このようにセントルイス万博では、あらゆる場面で活躍する女性の姿が見られ、さらに万博の公的業務にも計画の段階から参加していた。

5. セントルイス女性委員会の実態

1) 女性委員会の職務

1901年3月3日に成立した万博に関連するアメリカ連邦議会法では、「セントルイス万国博覧会委員会（以下万博委員会）はここに、委員会が指定した任務を遂行する特定人数の女性委員会を任命する。ただし任命にあたり委員会の承認を得ることを前提とする」と述べ、以下のように女性委員会の職務を規定した¹⁶⁾。

1. 女性委員会は条例により出品物では全部又は一部女性の手により製作されたものに対し授賞を決定するために、一人の審査員を選出して該出品の審査に関与することができる。
2. 博覧会の諸事にして特に女性に関するものあればすべてこれを監督することができる。
3. 女性委員は博覧会館竣工式及女性の列席する諸式典に参列し又博覧会会社及政府委員の要請に応じて諸種の儀式集會に出席すること。
4. 女性委員はその職務を行うために役員を選定することができるが、博覧会会社及政府役員を認を得ないで経費を要すべき事業を行ってはいけない。

これらの職務は、マッキンレー (William McKinley) 大統領 (1843-1901) の指示により、米国政府から女性委員会に与えられた。

2) 女性委員の選出方法

女性委員については、*World's Fair Bulletin* が以下のように詳細に紹介している¹⁷⁾。万博委員会が女性委員会のメンバーの任命に着手した際、満場一致で真っ先に選出されたのがニューヨークのヘレン・グールド (Helen M. Gould) であった。委員会は、米国の重要な都市であるニューヨークから最初の選出を行うべきだと考えたのである。偉大なるグールド輸送システムは、ルイジアナ地域の発展に非常に大きな役割を果たした。しかしそういった点への考慮は別として、委員たちは、西部の感情としてニューヨークの最も名だたる女性たちの中からヘレン・グールドを選抜させたのである。つまりヘレンの人生と人柄が、彼女自身に

人々の敬意と賛辞そして榮譽を与えていた。ヘレンの両親が、子供たちを育てるにあたって彼女を大いに頼りにしており、両親が亡くなった後、彼女が両親に代わって親の役割をしたことは一般的に知られていた。そして彼女は愛国心と慈悲深さに溢れ、たぐいまれな才能と教養を日々の仕事の遂行に喜んで用い、それを誇示することはない理想的な米国女性であった。

次に選ばれたのは、万国博覧会の開催地であるセントルイス選出の旧名アポリーン・アレクサンダー (Apolline Mclean Alexander)、現在のアポリーン・ブレア (Apolline Blair) であった。アポリーンは古代スコットランドの一家アレクサンダー一族の子孫である名高い一族の一員である。アレクサンダー一族はエアドリーに領地を持ち、その称号はスチュアート王家の時代からのものだった。また、彼女は初代ケンタッキー州知事ジョージ・マディソンの子孫であり、他の血筋をたどると、米国最高裁のマクレーン判事の家系でもあった。

上記以外の委員としては、次のような女性を選出された。ルイス・フロスト (Louis D. Frost) は、26年間ワイオナに住み、根気のある指導力を発揮し、女性のための仕事を数多く行なった。ルイス・フロストは5年間陸軍病院の女性部副会長として年一回開催されるバザーを受け持ち、1894年からはワイオナの音楽と文学のクラブの会長を務め、英国聖公会の仕事における彼女の影響はワイオナのみならずミネソタ州全体に及んだ。さらに彼女は公立小学校の部門でミネソタ州の委員長を務め、1893年のシカゴ万博では工作科の展示を行なった。

ジョン・マッコール (John A. McCall) は、ニューヨーク生命保険会社の社長の妻であった。地元の新聞は「マッコール婦人ほど、上品で礼儀正しく、暖かな心の持ち主はいない。誰よりも理想的米国婦人である」と称賛していた。アンナ・ドーズ (Anna L. Dawes) は、ヘンリー元上院議員の娘でワシントンではよく知られていた。彼女自身も著述家として称賛に値する独特の地位を得ていた。彼女は、米国政治の混乱を鋭い見識で表現し、彼女の父親の政治敵対者に対する激しく迫力ある社説を書いた。また様々な雑誌に政治に関する記事を寄稿した。ジュニー・ギルモア・ノット (Jennie Gilmore Knott) はイブニングポストの編集者の妻で、ウェルスリーカレッジを卒業後、女子のためにウェルスリー予科学校を設立した。イサベル・ルイズ・エベレスト (Isabel Louise Everest) の父親は、1849年のゴールドラッシュでカリフォルニアに行き財産を築いた。すでに亡くなっていた夫はミズリー鉄道の役員であり、彼女は豊かな教養と才能を持つ女性として西部では良く知られていた。

このように選出された女性委員は、ほとんどが古い家系を誇り米国有数の富豪であった。さらに彼女たち自身がすばらしい才能の持ち主であり、無報酬であるが名誉の職に従事することを当然と思っていた。委員の多くは女性クラブでの運営経験やビジネス経験が豊富であった。女性委員会が、万国博覧会組織の中で大いに装飾的要素を期待されたことは否定できないが、万国博覧会のために求められ選ばれた女性たちは皆、単に飾りでいることに甘んじはしないタイプの女性たちであり、この時代と世代に可能な限り大いに役立ち貢献するこ

とを望んでいた。

万博委員会は、米国の女性の思想と行動のリーダーとして、また万博の宣伝のために次のように全米各地から女性委員会の委員を選出した。ニューヨークより2人、コネティカット、マサチューセッツ、ジョージア、アーカンソー、ニュージャージー、ケンタッキー、カリフォルニア、カンザス、モンタナ、インディアナ、ミネソタ、コロラド、オハイオ、オレゴン、ロードアイランド、テキサス、ルイジアナの19州及びワシントンD.C.から各1人の合計22人であった。当初19名であったが、その後マーガレット・マニング (Margaretta Manning) らが選ばれ、最終的にセントルイス万博開催時には22名になった。この中から委員長1名、副委員長8名、書記1名、会計1名が選出された¹⁹⁾。

3) 女性館の建設と与えられた予算

女性委員会は1902年ニューヨークで第1回委員会を開催し、唯一ルイジアナ州出身であるアポリーン・ブレアを委員長に任命した。アポリーンの夫ジェームズは、万国博覧会株式会社の主任弁護士であり、南北戦争英雄のフランク・ブレアの孫であった。また祖母はセントルイス小児病院の創立者であった。そのことからセントルイスの女性の歴史を書いたキャサリン・コーベット (Katharine T. Corbett) は、「市民改善運動にもクラブ運営にも特に目立った活動をしたことがない35歳のアポリーン・ブレアは、自らの社会的身分と夫の地位から委員長に任命されたのだ」と、アポリーン・ブレアが選出され理由を彼女の資質よりも、彼女の夫の功績や家柄においている¹⁹⁾。しかしアポリーン・ブレア自身もすぐれた功績を残している。彼女は、音楽家としてセントルイスだけでなく他州でも活躍し、女性だけで構成された音楽クラブを指導し、米国の女性文化の発展に多大な貢献を果たしていた²⁰⁾。このアポリーンの性格が、初期の女性委員会の決定事項に大きな影響を与えたのは間違いない。

第1回会議での最重要議題は、「女性館を建てるか否か」であった。セントルイス女性委員会は男女の作品が同じ展示場で展示されるべきであるという信念から、女性館の建設に反対した。しかし、女性問題の議論の場として「慈善活動会館 (Hall of Philanthropy)」を建設し、女性の社会奉仕活動に関する議論と展示の場をつくることを議決した。また、シカゴ万博のミッドウェイに何百万人もの人を引き寄せたような「墮落した」娯楽に対して反対の立場を公的に表明した。

しかし、「慈善活動会館」を建設するには、博覧会会社からの資金援助もなく、強力なスポンサーもいなかったので寄付も少なく、建設は断念せざるを得なかった。また、女性委員会が打ち出した娯楽街建設反対に対しては、マスコミの反発を招いた²¹⁾。以後マスコミは、次のヘレン・グールドに対するように偏見に満ちた記事を掲載するようになった。「ヘレンは短いセントルイス滞在中大変行動的で、すべての女性委員会の会議に出席し、さらにセントルイス中をボディガードと共にドライブした。彼女は自分の安全を守るため背の高いボ

ディガードを常に伴い、様々なパーティーに華麗な衣裳で現れたが、彼女の許可なく写真をとることは出来なかった²²⁾。」

一方博覧会会社は女性委員会の存在を精力的にアピールしていた。1902年9月には、博覧会会社主催の女性委員会のための歓迎会がセントルイスで多くの政府関係者や地元の有力者を招いて盛大に開催された。美しく装飾された部屋の中央には豪華なバラが飾られ、レセプションの間中楽団が演奏していた。歓迎会は夜の9時に、アポリーン・ブレアとヘレン・グールドを伴って博覧会会社総裁のフランシス (David R. Francis) が現れ始まった。一行はフランシスを先頭に客を迎える主賓者の列を形成した。フランシスの隣にアポリーンが立ち、彼女の右側にヘレン、ヘレンの右側にルイス・フロストと女性委員会のメンバーが一列に並んだ。フランシスは、レセプションの出席者一人一人にアポリーンを紹介し、アポリーンが彼らにヘレンを紹介し、ヘレンはルイスを紹介し、これが繰り返されたため、出席者はゆっくりとしか進めず、この一連の挨拶に関する行為がすべて終わるのに2時間費やした²³⁾。

そのような状況で女性委員会は発足したが、博覧会会社は女性委員会に少額の接待予算しか与えなかった。そのため女性委員会は活動拠点を建設する費用もなく、博覧会会社が万博に使用する目的で借りていたワシントン大学の新キャンパス構内の物理棟の中の一室を使用することにした。しかし、その教室は事務局か小規模な集会用の程度の大きさでしかなく、当初予定していた慈善活動会館の展示を実現するには小さすぎた²⁴⁾。万博のために確保・調達した資金は1500万ドルあったが、女性委員会はこのうちわずか3000ドルしか自由に使えなかった。さらに女性委員会には裕福な後援者がいなかったため、資金難により、小さな教室とわずかな予算しかなく、女性委員会の活動は確かに制限された。アポリーン・ブレアは、「50年間の年月と苦労の上、女性は男性と平等になった。それでも女性のための建物は無いのだ。」と嘆いた。このような状況の中アポリーン・ブレアは、講演会を開くなど万博のためにできる事をいろいろ実施していたが、突然辞任した²⁵⁾。

アポリーン・ブレアの夫は、良い政府と誠実なビジネスを提唱していたが、顧客の信託資金を私欲のため盗み、万博理事会から除名された。この夫の失脚により、アポリーンは委員長を辞任した²⁶⁾。このため女性委員会は1903年12月15日から18日にかけてセントルイスで委員長を選出するための会議を開いた。ヘレン・グールドがマーガレット・マニングを推薦し、他に立候補する人も推薦する人もいなかったため、投票の結果マニングが委員長に選ばれた。マニングの夫は、クリーブランド大統領の第一次内閣で財務長官を務めていた。そのためワシントンに政治的つながりもあり、また彼女自身もクラブ会員としての経験が豊富であった。住居はワシントンD.C.にあるが、マニングは万博終了時までセントルイスに滞在した²⁷⁾。

マニングは米国の主要議員に働きかけ10万ドルの予算を確保し、会議室を装飾し、多数の要人を接待した。また、モデル都市のなかにある託児所に資金援助した。この託児所は、

万博を訪れた母親が幼児を熟練の看護婦にあずけて万博をゆっくり楽しむことを可能にしただけでなく、菩提樹のもとで女性がゆったりとした時を過ごす休憩所の役目も果たした。

4) 女性委員会の公的任務

女性委員会は、博覧会内で女性の関わるすべてのものに対して全般的に監督、管理する権利を持つが、この委員会の最も大きな特権は、女性が制作に携わった展示を審査する者を審査委員会から1名任命することであった。この特権は女性委員会に、女性のいかなる分野での優秀さをも最大限に評価できる立場を与え、またこの博覧会の国際審査委員会での職務に最もふさわしい者を選出することで、それらの優秀な女性に対する評価を公に示すことを可能にさせた²⁹⁾。

しかし、実際は万博委員会と女性委員会の審査委員のリストを巡る激しい論争が起こり、その経緯が以下のように新聞に連日掲載された。1904年8月11日付けの新聞には「万博委員会は女性審査員を33名のみに制限したので、女性委員会は拡大を要求し、女性審査員の追加リストを提出した²⁹⁾」ことが書かれ、9月1日には万博委員会の次のような反論の記事が掲載された。「女性委員会は万博委員会が当初の141部門全部に女性審査員を置く約束をしたが、明らかに15部門で女性審査員が任命されていないことを指摘し、マンシングの発議で15名の審査員の追加が要求された。この女性委員会の提案に対し、万博委員会は、いかなる事があっても、女性委員会が提出した審査員名簿を許可すべきでない。もし、女性委員会のメンバー全員が出席した会合で出された要求でないならば、女性委員会は万博委員会が最初に提示した名簿に従うべきである。³⁰⁾」万博委員会は女性委員会の一部の委員が秘密に会議を開き、審査員に関する事を決定していると非難していた。万博の展示品の審査が開始される直前の9月20日付けの新聞に、ついに女性委員会の会合がセントルイスで開かれた記事が掲載された。「二週間にわたる万博委員会と女性委員会の論争は、交わされた約束の合法性を巡って行なわれた。昨日女性委員会の特別委員会が開かれたが、メンバー22人のうち12人が出席し、マンシングが提案した15部門の審査員のノミネートが批准された³¹⁾。」

結局女性委員会のメンバーが全員集まる事はなく、万博の200人の審査員のうち女性は33名のみに決まってしまった。つまり女性たちの結束力の欠如により、当初万博委員会から約束されていた審査員の数を確保することができなかったのである。さらに女性の作品を同等に扱わなかった場合の展示者主催者の処罰を明確にしなかったために、女性の出品物の多くは男性のみにより審査された。このような中特筆すべき事は、女性委員会が審査員として極めて優秀な女性を指名したことである。米国で最初のセトルメントであるハル・ハウスを主催し、近代社会福祉の母と呼ばれたジェーン・アダムズ (Jane Addams, 1860-1935) が社会経済の展示を審査した。また一流の女性科学者達が電気と園芸の展示を審査した。

女性委員会のもう一つの重要な任務として、万博事務局の公式主催者としての活動があった。セントルイス万博のレセプションの多くの写真にマンシングら女性委員の晴れやかな威厳

のある姿を見る事が出来る。マニングは、日本の伏見宮貞愛殿下がセントルイス万博の視察に訪れた11月22日午後3時から5時の間、歓迎のレセプションを開催した。伏見宮貞愛殿下は、日本の天皇の従兄弟にあたり天皇の命によりセントルイス万博に訪れたため、日本庭園をはじめすべての主な建物の視察や博覧会総裁フランシスの歓迎会への出席など多忙を極めていた。そのような中、マニングは、伏見宮貞愛殿下との会を開催することに成功していた。食事が行なわれた部屋は日本と米国そして万国博覧会の旗で飾られていた³²⁾。また、中国の万博役員が開いたレセプションに参加したり、日本の茶道を楽しむセレモニーを開催したりした。このように米国を訪れた世界の要人を積極的に接待し、万博の宣伝に努めた。

女性委員会は接待しか出来ない愚かで口論の絶えない女性の集まりとか博覧会の装飾品の一つと評価されていた。日本政府は米国の女性委員会について『聖路易萬国博覧会本邦参同事業報告』において「政府委員及び博覧会会社は虚栄を婦人委員会に与えて、婦人社会の同情を得たるのみ単に博覧会を装飾した一機関³³⁾」と評した。しかし、セントルイス万博に残された数多くの写真の中の重要な場面で、必ず女性委員会のメンバーが登場することにより、女性参画の姿勢をアピールする効果をもたらす事はできた。

6. おわりに

以上のように女性委員会の主な任務は二つあり、一つは博覧会内で女性の関わるすべてのものに対して全般的に監督、管理する権利を有し、女性が制作に携わった展示を審査する者を審査委員会から1名任命することであった。もう一つの任務は、万博事務局の公式主催者としての活動であり、日本の伏見宮貞愛殿下の歓迎レセプションの開催、中国の万博役員が開いたレセプションへの参加など、米国を訪れた世界の要人を接待し、万博の宣伝をすることであった。

セントルイス万博において万博委員会が組織した女性委員会の女性委員は、ほとんどが古い家系を誇り米国有数の富豪であり、女性クラブでの運営経験やビジネス経験が豊富であった。女性委員会が、万博組織の中で装飾的役割を期待されたことは間違いないが、万博のために求められ選ばれた女性たちは皆、単に飾りであることに甘んじはしないタイプの女性たちだった。女性委員会の女性たちは、展示において男女が平等に評価されるのであれば、財政的にも政治的にも正当な権利が与えられると信じ、男女統合展示が更なる男女平等につながると思っていた。その結果1904年の美しい「アイボリーシティ」を作り出す巨大な建物の中には、女性の建物は見当たらなかった。つまり女性は男性と平等に扱われるため、女性だけを別にした女性専用の展示館といったものを必要としなかったのである。

セントルイス万博は、女性委員会に社会活動の場と男女平等の実現の機会を与えた。女性委員会は万博を男女平等の実践の場と捉え、女性のための特別な場を設けなかった。その結果、女性委員会は女性の功績を称える方法や率直な議論の場もなく、女性の模範像を展示す

することもできなかった。展示の審査員として人数は少なかったが、ジェーン・アダムズのよ
うな社会的影響力がある女性が起用されたことや、万博のあらゆる公的場面に女性が参加し
たにもかかわらず、女性委員会は資金難や組織力の欠如、ジェンダーによる差別により、男
女平等の効果的な活動は実現出来なかった。

注

- 1) Robert, W. Rydell, John, E. Findling, Kimberly, D. Pell, *Fair America*, Smithsonian Institution, 2000, p.133
- 2) *Official Guide To The Louisiana Purchase Exposition*, 1904, p143.
- 3) 小沢英二「万国博覧会とオリンピック大会—1904年セントルイス大会での『人類学の日』をめぐって」
(『椋山女学園大学論集』人文科学篇、第25号、pp.35-45、1994年。) 関口英里「ホワイト・シティの女
性たち—万国博覧会という文化装置—」同志社女子大学 学術研究年報第57巻、2006年。畑智子「セン
トルイス万国博覧会における『日本』の建築物」(『日本建築学会計画系論文集』第532号、pp.231-
238、2000年。渡辺かよ子「1904年セントルイス万国博覧会における『教育』」(『愛知淑徳大学論集』、
コミュニケーション学部篇、第3号、pp.149-161、2003年。)
- 4) 藤瀬浩司『欧米経済史—資本主義と世界経済の発展—』放送大学教育振興会、1999年、pp.138-139.
- 5) 秋元英一・菅英輝『アメリカ20世紀史』東京大学出版会、2003年、p.2.
- 6) 三本松政之・朝倉美江『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ、2007年、p.50.
- 7) 吉見俊哉『博覧会の政治学—まなざしの近代』中央公論社、1992年、p.187.
- 8) 味岡京子「1893年シカゴ万国博覧会『女性館』への日本の出品—『女性の芸術』をめぐって—」(人間文
化論叢第9巻、2006) p.3.
- 9) 永山定富編集、復刻『海外博覧会本邦参同史料 (第四編)』フジミ書房、1997年、p.16.
- 10) 同上、pp.31-32.
- 11) 同上、p.35.
- 12) 『聖路易万国博覧会本邦参同事業報告』第二編 農商務省、1905年、pp.66-67.
- 13) *World's Fair Bulletin*, vol.5, No.6, p.22. November, 1903.
- 14) *Scrapbook*, vol.14, p.155, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 15) *Ibid.*, vol.12, p.113, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 16) 前掲第二編、p.66.
- 17) *World's Fair Bulletin*, vol.3, No.6, pp.22-25. April, 1902.
- 18) 前掲第二編、p.67.
- 19) Katharine T. Corbett., *in her place-A Guide to St. Louis Women's History Missouri* Historical Society Press,
p.174, 2000.
- 20) *World's Fair Bulletin*, vol.3, No.6, p.21. April, 1902.
- 21) *Op. Cit.*, Katharine T. Corbett., p.175.
- 22) *Scrapbook*, vol.14, p.113, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 23) *Ibid.*, vol.1, p.151, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 24) *Op. Cit.*, Katharine T. Corbett.,pp.176-177.
- 25) *Ibid.*
- 26) *Ibid.*

- 27) *World's Fair Bulletin*, vol.6, No.2, p.39. December 1903.
- 28) *Official Guide To The Louisiana Purchase Exposition*, 1904, p144.
- 29) *Scrapbook*, vol.14, p.113, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 30) *Ibid.*, vol.14, p.113, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 31) *Ibid.*, vol.14, p.115, (セントルイス公立図書館所蔵)
- 32) *World's Fair Bulletin*, vol.6, No.2, p.39. December 1904.
- 33) 前掲第二編、pp.66-67.

付記

本稿は、2007年11月10日国立教育政策研究所社会教育実践研究センターで開催された日本生涯教育学会第28回大会に於いて、口頭発表した「セントルイス万国博覧会とボランティア」の内容に加筆したものである。